

# 月刊 中東レポート

第90号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL (03) 3291-5533  
編集 J. R. A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費24,000円

目次  
敵の分界線を許さない統一した隊伍を...  
資料 ...  
・攻撃の継続を! (抄)  
・アラブ外相会議最終声明 (抄)  
・被占領下のバレスチナ経済 西岸、ガザの輸出力 (抄)  
・ガザからイスラエルは撤退するか? (抄)  
・ラビンは自らが点火した火災と闘っている (抄)  
・被追放者たちの現状——殉教の行進を中心  
重要日誌 (一九九三年四月一日～五月一〇日) : 15

7 1

## 敵の分界線を許さない 統一した隊伍を

一九九三年五月一〇日

シオニスト（クリントン政権＝イスラエル）の側はアメとムチ、というよりムチを中心、アラブ側に予定通りの開催を迫った。対してアラブ側は、参加か否かの決定をギリギリまで引き延ばし、敵の側の譲歩、確約をとろうとしたことは前号でも述べた。

一六日からの前線諸国外相会議は、大方の予想に反して、再び決定を延期した（それは同時に、予定通りの開催を不可能にした）。同会議の議長、シャラーリ・シリヤ外相は「ペレスチナの兄弟たちからの（交渉開始）延期の声が出された。われわれはさらに意見を交換する」と発

表。さらに同外相は、一八日のアラブ連盟外相会議の場では、「われわれは統一的なアラブの立場をとる。交渉に行くのも一緒であり、（パレスチナが）行かないなら誰も行かない」とも発表した。

予定通りの会議開催は必須としてきた米国は、慌てて、アラブ諸国に、さまざまな外交圧力を展開した。クリストファーは、「少しばかり失望しているが、再開を確信しているし、延期が一週間を越えないことを希望している」と平靜を装おつてみせた。が、ペレスが、「予定通りの開催に大きな期待をしていた米国にとって

（アラブ側の対応は大きな）驚きである」と、クリントン政権の内情を吐露してみせた。そして、パレスチナ内部の反対気運を押し切つてのアラファト決断による参加決定。パレスチナ代表団のほとんどは、重い足をひきずつて、ワシントンへと向かった。

開催直後の米国の対応とイスラエル側の一定の「約束」履行は、アラブ側、とりわけパレスチナ側の気運を変えるかに見えた。

だが、シオニストの対応は、結局そこまで。再び、交渉は膠着状況に陥った。

今号では、逆転、また逆転となつたこの間の動きと、そのなかに示される本質的な問題に触れてみたい。

### 一 米国の要望とアラファト決断

前号で伝えたように、米国は、アラブ側にへとにかく交渉に参加せよ、他に選択の余地はない」と迫ることを中心につつ、クリントン＝ムバラク会談で、F・フセイニ氏の交渉団への

参加を提示し、パレスチナ側への交渉参加を促した。クリントン政権になつて初めての会議を、四月二〇日に予定通り開催するためにも、米国は、国務省中東担当補佐官ジエレジャントと各國代表との個別の会談を、一三、一四の両日持ち、根回しを行つた。

一四日には、ムバラク＝ラビン会談が行われ、両者は、「予定通り行われることに大いなる希望があり、これは（一六日からの前線諸国外相による）ダマスカスでの会議で決定されるであろう」（ムバラク）、「私は大いに希望的である。和平交渉が予定通り再開されることに希望的であること強調する」（ラビン）と、揃つて樂観論を打ち上げた。

そうした樂觀論を裏打ちするかのように、同日、アブ・シャリフは、エルサレム・ポスト紙に、「パレスチナ代表団は予定通りワシントンへ行くだろう。追放問題は和平過程を妨害しているわけではない。われわれはすべての障害を克服し、和平過程の再開のために最善の努力を尽くす」と述べて、シオニスト側を喜ばせた。

だが、アラブ側の対応は、彼らの思惑通りではなかつた。各国は和平交渉への意向を示しつつ、パレスチナ抜きでの交渉再開に反対を再度明確にした。パレスチナ人民は、そうした再開に加えるのに、大量の追放、一〇〇〇人近くの死傷者、数十の家屋の破壊、数億ドルとも見積もられる損失、封鎖などなどが代償だとすると、

いると非難（レバノン南部のキャンプでの暗殺ともあいまつて、緊張はいやがうえにも高まつたのだが、こうした点に関しては後述）。アラファト議長は、二五日、BBCのインタビューで「二年内のパレスチナ独立国家」を描き、記者をそこへ招待すると語るなど、樂觀的な発言をしたが、同日、出発に際した代表団の方は、それとはまったく対照的で、悲観的なムードが色濃く示されていた。

## 二 華々しく、だが、尻すぼみになつた交渉

進展如何によつてはこれが最後の回になると、いう観測のなかで、やつと、クリントン政権になつて初めての交渉が開始された。各國代表が揃つて一つのテーブルに着くというマドリッド以来の演出と、クリストファーの「交渉の中心問題に焦点を当てる」と、米国は「全面的なパートナー」としての役割を果たすことの強調がなされた。

そして、イスラエル側が、古い被追放者三〇人の帰還を認めると発表したのをはじめ、離散家族の五〇〇〇人（女性と子供が中心）に永久滞在を認める、約一万の「不法建築」の取り壊し命令を取り下げるといった措置を発表した。三〇人の中には、元PNCメンバーやPFLDFメンバー、東エルサレムの市長ハティブ氏も含まれていた。ハティブ氏は、イスラエルによるエルサレムの併合に反対し、六八年に追放になつた人物であり、パレスチナやヨルダンそ

今後「自治」のために一体どれだけの代價を払わねばならないのか？しかも、フセイニの名前での合意は米国＝イスラエルの合意ではないのか、とすると、パレスチナ代表団の選出の権利はパレスチナにのみあるとしてきたことに反するのではないか」といった声が挙がると同時に、被占領地内でのさまざまな鬭い、レバノン南部でのレジスタンスの闘いが激しく展開され、マルジ・アッズホールの被追放者たちは「殉教の行進」を展開した。

そうしたなかでのダマスカス会議は、再び結論を出せないまま、いつたん、以前から予定されていたアラブ連盟外相会議（カイロ）に参加し、その後再度開催することになった。これは、予定通りの開催には間に合わない、つまり会議開催の延期を意味した。

クリストファーは、一七日に慌ててシャラーラ外相に電話（五日間延期し、二五日からの開催で合意）と伝えられたりした。と同時に、米国は、いわゆる親米アラブ諸国を経由したさまざま外交展開をもつて、交渉再開への合意をつくらせようとした。

他方、PLO側は、「米国とイスラエルからあいまいな約束ではなく、明確で確固とした約束」（ラボPLO情報局長）を取り付けようとした。だが、交渉団長のシャフィ氏は、「われわれは第九次交渉に参加する最低限のものさえ得てはいない、もはや約束などではダメで、実際的な行為で示されなければならない」と対応した。アンマンで開催されたPLO指導部と代

してアラブ諸国から、現在も正式のエルサレム市長と見なされている。フセイニ氏の代表団入りに加えてこの措置は、あたかもエルサレム問題でも進展を保証するかのように写つた。

代表団出発時の人民の沈滯＝反対のムードは逆転し、多くの人民が、パレスチナ旗やアラファト議長の写真で飾りたてて、彼らの帰還を歓迎した。

同時に、パレスチナ＝イスラエル交渉は、自シオニスト側から和平志向キャンペーンが大々的に展開された。イスラエルの閣僚からも、ガザの即刻の実験的独立、パレスチナ警察の設立、ヨルダン＝パレスチナ＝イスラエル連邦、エルサレム住民の選挙権、PLOとの直接交渉、などが連日のように飛び出し、アラファト議長の「二年内の独立国家」も夢ではないかのようになされた。

しかし、実際には、封鎖は継続し、発砲基準はいつそう緩和＝拡大され、弾圧と拷問の基準も拡大（二六日のイスラエル放送もシンベトの「肉眼的な〔圧力〕」の〔新たな〕ガイドライン」を紹介している）、入植活動は継続され、とりわけ（一方でシリアへの全面返還とも言われて）ゴランでは四月中旬に住宅省が二五〇戸の販売を開始し、最初の日に一〇八家族が購入申請したことを宣伝、エルサレム地区でも同様の入植推進策動が展開され、「統一エルサレム

はイスラエルの首都」論が強調されるという状況。ラビンは、五月一日、「現在進行しているアラブ側との和平で、エジプトとの和平のようにするわけにはいかない。エジプトに戦争で勝ち取ったテリトリーのすべて、最後の一センチまで返したこと私は残念と思う。そうした前例を繰り返すことなしに、どう和平を達成するかがわれわれの鬪いである」と宣言した。

そして、連立を形成する宗教党派のシャスと左派のメレツとの対立の再度の表面化。それを契機に、ラビンは「閣僚の無責任発言」を禁止し、同時にイスラエル側の交渉での対応は以前とまったく変わらないものになった。（シャスとメレツの対立は、アラブ側への妥協を拒否する口実に使うため、ラビンの演出）、とアラブの各紙は非難した。

鳴り物いりのイスラエル提案に対しても、カボ氏も、「占領を正当化しようとするそのような計画を全面的に拒否する」と発表した。

そして、パレスチナ側は、五月五日、和平と真実の残虐と残酷の展開に抗議して、人権問題部会を停止。一〇日には米国ならびにイスラエルが約束を反古にして、三部会のすべてを停止し、交渉メンバーを三人に縮小した。

フセイニ氏が「イスラエル提案は部分的に言葉、用語を変えてはいるが、その意味するものはなんら変わりはない」と語っているが、最も

表団の会議は、領内外パレスチナ人民の声を反映した。〈現状のまでの開催に反対〉の声が圧倒した。

進展が見られたと喧伝されたパレスチナ側にしてこうであり、期待されていた(?)シリアとは、アラファト議長が(根本はイスラエルのアラブ領土からの撤退であるが、彼らは決議や「ランド・フォード・ピース」の原則に矛盾したこれまでのあり方を繰り返しているだけ)と非難したように、まったくの進展なし。であれば、他の諸国の交渉も似たもの。

### 三 シオニストの分断策動を許さない

#### 闘う隊伍の構築を

分断支配は、支配者の常套手段である。シオニスト側は、中東での支配戦略として、この点で少なくとも二つのことを明確に打ち出していいる。

一つは、包括的な和平ではなく、個別の和平とすることである。今交渉前に、シオニスト側が喧伝していたのは、「シリアとの合意が間近である」というもので、シリアを和平に引き込み、さらには他の諸国をして、疑心暗鬼と焦りに陥ることを狙っていた。また、米国が、「和平の早期の樹立のため」という口実で提案してきた、連続的で切れ目なしの交渉も、アラブ側の統一した足並みを作らないことを狙つたものであり、それゆえに、アラブ側から拒否された。

そしてもう一つは、反テロ、反原理主義といった分界線である。国務省の「テロ年次報告」でもそれが明確であるし、古い被追放者三〇人の帰還の中にもそうした意図が示されている。そ

した。統いて、一〇組織や各派も、「ニセ情報に惑わされて、分裂を作るような行為を慎むよう」呼びかけた(先に示したように、彼らの声明は、敵に対する闘いをもつてアラファトに再考させるとしている)。

爆発寸前のレバノンのパレスチナ社会に対しては、レバノンの民族組織が仲介して、パレスチナ諸組織の会議がもたれ、「暗殺行為は、レバノン、パレスチナ人民への敵の陰謀、もしくはそれへの加担行為。政治的な違いはあっても、それを流血沙汰にしない」とことを確認しあった。二七日からの交渉の再開に際して、一〇組織のゼネスト呼びかけ、他方でのファタハ名の「ストに加担するな、通常通り店を開け、仕事を。一部の脅しを許すな」といった呼びかけ、言葉の上での非難合戦、というなかで緊張は高まつたが、敵の策謀に陥ることは回避された。

三〇人の帰還者の中に、P.F.やD.F.メンバーも入っていたのは、敵が原理主義者とその他の分断を策してきていること、アラファト派もまた、そうした方向で自らの影響力を確立しようとしたことを意味した。だが、繰り返すが、敵は決して、P.L.O.を交渉の当事者として承認しようとしているわけではない。P.L.O.を支援しているかのように見せかけつつ、パレスチナ内の対立、内戦状況を作りだし、インティファーダを弱体化させ、パレスチナには統治能力はないとして、占領・支配を正当化しようとしているのである。

「これはほんの一歩だ。これは眞の和平のシ

して、先に少し触れた、アラファト議長の決断と発言などにも、そうした敵の意図を知つたうえで、それに乗じて交渉再開に踏み切った意図が示されている。

パレスチナ人民の圧倒的多数が、そしてP.L.O.内や代表团の多数も、交渉再開に反対を示しているにもかかわらず、アラファト議長はあえて参加の方に向に踏み切った。レバノンの新聞は(P.L.O.指導部とイスラエルの間で、イスラム原理主義に対するあり方で協力関係の合意が交わされた)と報じた。アラファト決断は、湾岸諸国からの支援の再開、シリアとの和解、P.L.O.が指導的責任機関であることの承認、を踏まえてなされたものであるが、それはアラファト議長が八二年のベイルート撤退時から探求してきた、米国との対話をはじめとする国際政治社会での承認へのチャンスと捉えての決断だったと言えよう。

一二月の四一五人にもものぼる大量追放とその後の鬭いは、領内外の人民の圧倒的多数の支持をハマスをはじめとした一〇組織が享受することになった。かつてのマドリッド会議の際の和平への期待はほぼ消滅し、占領軍との鬭いの日々であり、離散のパレスチナ・キャンプでは、和平が彼らの帰還の希いとまったくかけ離れていたことがいつそう明確になつたからである。であるからこそ、P.L.O.指導部内、代表团内にも、現状のままでの再開に強い反対があつた。

だが、国際的な政治的承認を勝ち取ろうとしたとき、「反対」では通用せず、敵の戦略方向

決断はパレスチナ人民の声を無視したもの、パレスチナの大義を売り飛ばしたもの、人民内部に分裂を持ち込もうとしている、辞任すべき、などの非難となつたのであり、だからこそ、レバノンやアラブの新聞論調はもちろん、国際的な報道機関も、「アラファトは、交渉の再開へと進める」とによつて、パレスチナ内の分裂の危険を選択した」と報道した。

被追放者たちや一〇組織などが、アラファトはいつでも爆発可能な火薬樽のようなもの」(二六日、パレスチナ筋の弁)という状況にまで至つた。まさに敵の思う壺にはまつてしまいながら、そうした自滅行為を回避しようという努力が展開された。そのイニシアチブは、まず、マルジ・アップホールの被追放者たちから発された。彼らは、被占領地内でP.L.O.やファタハ名義の、「代表团への脅迫はファタハへの攻撃とみなし、誰であれ処罰する」という声明のニュースに対して、即座に「これはイスラエルの諜報機関の仕業であり、パレスチナ人民の分裂と内戦を発生させようとするもの」と非難

グナルではない」と帰還者の一人が語つたように、敵のアメは和平の名に偽しない。大衆的祝賀は当日だけで、占領と封鎖の厳しい現実が、彼らの直面したものだった。そうであるがゆえに、一方で決して敵の条件に屈することのないねばり強い交渉を行いつつ、占領者との鬭いを展開すること、なによりも、敵の分断策動に乗せられることなく、隊伍を強化し、民族的权利を確立していくことが大切なである。

パレスチナ内の緊張は、現時点では、一応、回避された。だが、アラファト議長が、ハズバラーやヨルダンの原理主義者をも非難し、それに対して彼らが逆批判を展開。とりわけ、ヨルダンでは、原理主義者がアラファト派の拠点とも言われるワハダ・キャンプ内で、交渉は大義への裏切りとするデモを展開したり(五月七日)、アラファト路線を非難するビラを発表したり(同八日)、という状況にある。

もちろん、それらに対しても、言論の自由として論争は認めて、鬭いの方向は敵に集中すること、お互いに挑発行為はとらないという努力がなされている。

交渉を巡る政治的駆け引きの陰で、被占領地では、封鎖、無差別の家宅捜索、大量逮捕、無差別発砲、家屋破壊などなどの弾圧措置が実行され、一日には、イスラエル兵を三〇人死亡、一人負傷させたのをはじめ、ガリリーへのロケット攻撃など、数々の作戦を展開しているのである。

レバノン南部では、レジスタンスの攻撃が果敢に展開され、一三日には、イスラエル兵を三〇人死んだ。ガザでナタを用いて、イスラエルの弁護士を死んでさせた。もちろん、銃や爆弾を用いた攻撃も数多く展開された。

レバノン南部では、レジスタンスの攻撃が果敢に展開され、一三日には、イスラエル兵を三〇人死んだ。ガザでナタを死んでさせた。そして、これはシオニストを震えあがらせた。そして、一八日には、ガザでナタを用いて、イスラエルの弁護士を死んでさせた。もちろん、銃や爆弾を

をも含めた、多様で相互に呼応しあつた闘いは、「敵の陰謀」を突き破り、「挑発に乗らない、挑発=分断策動に介入の余地を与えない」闘い方を提示し、インティファーダの抹殺、パレスチナ問題そのものの抹殺というシオニストの意図に全力で対抗している。

パレスチナ労働者のイスラエル内での賃金は、ガザのパレスチナ人の総収入の約五〇%、西岸のそれの三五%と見積もられている。本当に和平を創ろうという意図があるなら、まず封鎖を解除すべきであり、同時に、被占領地の経済を占領者のために完全に依存させる構造をなくすこと、すなわち自決の権利の尊重が必要である。が、占領者にはそのような配慮はまったくない。占領者の「和平」は奴らのためのものでしかない。だからこそ、人民は米国が敷いた和平、交渉などを信用しないのである。信用せよという方が無理というものであろう。

そうした人民の状況を知っているからこそ、一方で、PLOにエサをちらつかせ、他方で、アブ・ジハード暗殺、ムサウイ師暗殺といった指導部の暗殺とあわよくばそれを契機にした内部攪乱=内ゲバの創出、そして占領と支配の正当化を、敵は狙っているのである。

封鎖は、一定の「安全性」というものを保証したが、ラビン政権、というよりイスラエルに、その存在そのものに関わる根本問題を突きつけることになった。「民なき土地=砂漠をユダヤ人が刻苦奮闘して、緑の土地に変えた」という神話の崩壊である。〈封鎖はイスラエル内の失

業対策にもつながる〉とうそびていたラビン「人」という神話を信じ、イスラエルへの支援をしてきた人々の中に、少なからぬ疑問を投げ、パレスチナ問題への理解を作り出す力になつてきた。そして、封鎖は、それにいつそうの拍車をかけることになった。

これは、インティファーダの推進を勇気づけている。そして、よりいっそう敵が自己矛盾に陥るような闘い方、そのためにも味方の統一した闘い方が必要なことを示している。

**五 結語に代えて**

ワシントンに、ナチによるホロコースト記念館が開設された。毎週、イスラエル大使館前とホワイトハウス前を、パレスチナ旗を掲げて、単独デモをしている清掃従業員、ウイルコックス氏が、開設当日、「パレスチナ人を忘れるな!」というプラカードとパレスチナ旗を掲げて、同記念館前をデモ。彼は、ユダヤ人三人に鉄パイプで殴られ、一二針の怪我をさせられた。

八八号で、アラブ系米国人へのスペイ活動を

「われらが人民、大衆へ」  
インティファーダは質的な高揚を示している。とりわけ、ガザでは、われらが人民の闘いが展開され、ラビン政府によって実行されている敵のテロや弾圧に対抗する武装闘争とそれを包囲、支援する大衆の闘いが展開され、敵の占領、弾圧政策の深い危機を露呈させ、敵をして撤退論を云々させている。占領軍や入植者どもに恐怖を与えている、鉄腕(訳注、武装部隊、攻撃部隊を意味する)にあいさつを送る。自由と独立の達成まで進むことを示している、英雄的なインティファーダの人民にあいさつを送る。

占領者どもとの共存を拒否し、自由と独立への道を主張する大衆のまえに、占領当局は被占領地への封鎖をもつてわれらが人民の正当で合法的な闘いの拡大を阻止しようと、あがきにも似た試みを行っている。民族統一指導部(以下、UNL)は、われらが人民に、土地を耕し、社会的連帯を強化し、イスラエル経済にもう一つの痛烈な打撃を与えること、ならびに、われらが労働者は敵の緊急の必要性からの限定的な労働許可の拒否を、呼びかける。

UNLは、国際社会に対してわれらが人民へ

の犯罪行為に対する国際的な保護を要請する。シオニストがユダヤ化キャンペーンを展開し、入植活動の強化をもって形態的な変化を策しているなかで、こうした保護がなされなければ、帰還、自決、エルサレムを首都とした独立国家の設立という、われらが人民の正当な権利、和平についての討議は意味をなさなくなる。

「われらが英雄的大衆へ」  
イスラエル政府が国際的な正當性を否定し続け、決議七九九の遂行を拒否している一方、米政権はイスラエルを保護し、決議の無視に向け、パレスチナアラブ側に圧力をかけている。米国は、同時に、イラクの人民に対する軍事的経済的包囲の継続を、国連決議の適用という名目で、展開しているが、これはわれらがアラブ人民をして、米国の利益と戦略的「同盟者」イスラエルに対して、膝まずかせ、屈服させようという意図が証明されている。

シオニスト擬制国家の経済的目的は、被占領地の経済全体を、イスラエルのそれに併合し、われらが人民の独立した経済基盤を作らせないことにある。インティファーダは、パレスチナ市場におけるいくつかの独自の産品を大衆的に保護するという側面で特記すべき成果を作りだした。最近、占領当局はイスラエル産業の基礎力、その競争能力育成のため、アラブ市場の安定を通して、消費者の保護を提供するようにならなければならない。流通界も地場経済の保

護への責任を担うこと、大衆はわれらが人民内の消費を通した敵の浸透を許さないよう問い合わせている。

UNLは以下を確認する。

—UNLは「民政府」当局による市町村議会の指名を占領の道具の一部とみなす。ビル・ナビラ村議会の危機は「民政府」と諜報機関による同村内の社会関係と違いを宣伝するための操作とみなす。UNLは同村議会の全員を民族組織に人民への虐殺と暴力を停止させる行動を呼びかける。

—英語的指導者アブ・ジハードの五周年に際して、われらが人民がアブ・ジハードの道に忠誠を誓い、闘いを拡大するよう呼びかける。

—UNLは、シオニスト一味によって企まれているわれらが親愛なるエルサレムに関する土地の接收、その性格の変更、ユダヤ人入植の固定化などの拒否を明確にする。国際社会に対しても、こうした企てはジュネーブ条約や国際法に違背しており、これに立ち向かうよう、呼びかける。道路工事であれ、入植地での建設工事であれ、他の仕事であれ、こうした企みの下で、協力しているアラブの建設業者に警告を発する。

政権は、しかし、「安いアラブの労働力」の欠乏によって、農業や建設業は大打撃を受け、インフレの進行に悩まされ、「外国人労働者の輸入」を検討さえしている。三分の一ないし二分の一の賃金で、危険で汚い仕事をパレスチナ人に依存してきたイスラエル社会は、封鎖によつて、失業問題を解決するどころか、また一つその神話を崩壊させた。

インティファーダは、これまで「悲劇のユダヤ人」という神話を信じ、イスラエルへの支援をしてきた人々の中に、少なからぬ疑問を投げ、パレスチナ問題への理解を作り出す力になつてきた。そして、封鎖は、それにいつそうの拍車をかけることになった。

これは、インティファーダの推進を勇気づけている。そして、よりいっそう敵が自己矛盾に陥るような闘い方、そのためにも味方の統一した闘い方が必要なことを示している。

ヤ人」という神話を信じ、イスラエルへの支援をしてきた人々の中に、少なからぬ疑問を投げ、パレスチナ問題への理解を作り出す力になつてきた。そして、封鎖は、それにいつそうの拍車をかけることになった。

これは、インティファーダの推進を勇気づけている。そして、よりいっそう敵が自己矛盾に陥るような闘い方、そのためにも味方の統一した闘い方が必要なことを示している。

**五 結語に代えて**

ワシントンに、ナチによるホロコースト記念館が開設された。毎週、イスラエル大使館前とホワイトハウス前を、パレスチナ旗を掲げて、単独デモをしている清掃従業員、ウイルコックス氏が、開設当日、「パレスチナ人を忘れるな!」というプラカードとパレスチナ旗を掲げて、同記念館前をデモ。彼は、ユダヤ人三人に鉄パイプで殴られ、一二針の怪我をさせられた。

八八号で、アラブ系米国人へのスペイ活動を

紹介したが、この件で一九人が反名譽棄損同盟(ADL)を団体訴追した(四月一四日)。その中には、シャミール政権の外相、戦争相などを務めたアレンスの息子も含まれている。彼は、八〇年代に、イスラエルのパレスチナ人への批判したため、ADLのリストに載るところになった。その彼は、「ADLは、アラブ系の神話を崩壊させた。

エルサレムでは四月二一日、パレスチナ、イスラエル、国際的な人権運動の活動家が集会を開いた。イスラエルの弾圧=人権侵害に加えて、封鎖が実質的に西岸、ガザを四つに分割している。そして、「イラクによるブッシュ暗殺計画」や「イランの脅威」の喧伝に必死である。言うまでもなく、「平和と安定」という美名の下、戦争を仕掛けたための策動の一部である。

他方、シオニスト側は、アラブと報道機関を使つて、「イラクによるブッシュ暗殺計画」や封鎖が実質的に西岸、ガザを四つに分割したことへの批判が相次いだ。

他方、シオニスト側は、アラブと報道機関を使つて、「イラクによるブッシュ暗殺計画」や封鎖が実質的に西岸、ガザを四つに分割したことへの批判が相次いだ。

エルサレムでは四月二一日、パレスチナ、イスラエル、国際的な人権運動の活動家が集会を開いた。イスラエルの弾圧=人権侵害に加えて、封鎖が実質的に西岸、ガザを四つに分割している。そして、「イラクによるブッシュ暗殺計画」や「イランの脅威」の喧伝に必死である。言うまでもなく、「平和と安定」という美名の下、戦争を仕掛けたための策動の一部である。

真の平和のため、勝手な分界線を引いたり、戦争を仕掛けたりといふ、敵の策動を許さない人民の連帯、広範な闘いの輪をつくりだし、拡大、強化していくことが問われている。



同時に、エルサレムのユダヤ化計画に参画する者すべてに警告する。

—UNLは決議七九九の適用を、大衆的民族的な合意と確認する。この決議を曖昧にするいかなる企ても拒否し、国際社会がイスラエルに對して世界の意志を即刻全面的に適用するよう圧力をかけることを呼びかけ、被放者たちとその家族にあいさつを送る。

—われらが人民内のキリスト教徒に、イースターの祝賀を送る。と同時に、この機を祝賀とともに放者と獄中者との連帯の機会とするよう呼びかける。

—UNLは、シオニスト獄中で殺されたM・A・マズカルの殉教を宣言する。

—UNLは、イラク人民との連帯を確認し、米国による不当な対立、分断を狙った経済包囲をアラブ・イスラム諸国が突き破るよう呼びかける。

—UNLは、われらが戦士たちが展開する英雄的な作戦を停止させようとする、疑惑の多い呼びかけのすべてを拒否する。

—UNLは、離散状況下のラマラの息子連盟の年次大会に向けた領内からの主導性にあいさつを送り、同時にわれらが離散の人民に被占領下の郷土との関係強化を呼びかける。

—UNLは、われらが人民、大衆にわれらが人民内部での疑惑多い問題の発生に注意を喚起し、麻薬ギャングの浸透策動への対決と警告を発する。

〈パレスチナ、アラブ、イスラムの大衆〉

この記念日に際し、われわれは、われらが人民の意志はいかに敵の対応策が強烈でも決して壊されることはなく、殺害、破壊、追放などのさまざまな行為もわれわれを決して屈服させることはできないことを再確認したい。敵は家屋、果樹園、墓地を破壊し、そこに入植地を設立し、入植者にあらゆる種類の武器を与え、殺害を開する。また、占領当局は數十、数万のパレスチナ人を投獄し、数千のわれらが子供たち、女たち、老人たちを殺害し、そしてわれらが人民の最低限の人権、生存権をも剥奪している。そして今後もさらに関開していくであろう。だが、いかにそれが強くとも、われらが人民を屈服させることはできないし、占領に対し抵抗するわれらが大衆の意志を碎くことはできない。われらが人民は占領のものを拒絶し、四〇年以上に渡つてさまざまな表現をもつた占領に対決してきし、疲れることなく、後退することもせず、その最終的な民族的目的において固結し、もって、解放、帰還、自決の達成へと進んでいる。

現在の差し迫る危険は「自治」陰謀である。これまでの八次の交渉で敵シオニストはわれらが土地の占領を正当化する、「自治政府」の概念でなんら譲歩を示していない。にもかかわらず、パレスチナ交渉団、PLO内の「主流派」は相変わらず幻想の獲得物を数え、敵シオニストに次から次へと妥協を行い、われらが人民をしてそした方向が民族的目的を達成し得るか

のように信じさせようとしている。

これまでの経験は、目的、権利は闘いを通してしか手にすることはできないことを証明している。被占領下のパレスチナでのわれらが人民のインティファーダは、シオニスト＝帝国主義の陰謀に対するわれらが人民の闘いの新しい道筋である。この道筋は、われらが英雄的な人民の自「犠牲」によつて、そう打ち固められ、日々、こうした道こそが、われらが人民の正当な権利を確立する道であることを明確にしている。ラビンの鉄拳政策、無差別の乱射、移送政策などは決してわれらが大衆を怖じ氣づかせたり、闘いの繼續を阻止したりといふことにはならない。反対に、そうした政策はわれらが人民をいつそうその民族的な目的の達成へと一致させるだけである。われわれは被占領地内の英雄的闘いと、非常に困難な状況の中においても堅忍さを保ち続けている英雄たち、被放者たちとともにいたる。ラビン＝クリストファーは、この安保理決議七九九の全面的な適用を主張し続ける被放者たちのあり方は、追放以来拡大してきたインティファーダをいつそう奮い立たせた。土地の日に際して、われわれはPLO指導部内の、そしてアラブ政権内の主流派に対して、立場を、インティファーダと被放者たちの英雄的堅忍さを明確に主張する。

ガリリー、ムサラス（三角地帯）、ナカブの町村の土地の日の殉教者たち、ならびに土地がアラブのものであることを主張して犠牲となつた人々への特別のあいさつを表明する。われわれは、解放まで闘いを継続することを約束する。

—被占領地のわれらが人民のインティファーダの繼續を称える！

—被放者の堅忍さ、そして彼らの一括かつ即時の帰還の主張を称える！

—敵シオニストの獄にある英雄たちを称える！

UNLは諸君らにあいさつを送るとともに、以下を呼びかける。

①インティファーダを拡大し、大衆的デモの組織化をもつて、それを強化せん。

②四月九日、インティファーダ六五ヵ月目に突入、ゼネスト。

③四月一六日、アラブ・ジハード殉教の日。大衆デモを組織し、占領軍との対決を。

④四月一七日、獄中者の日。多様な活動をもつて獄中の自由の戦士たちとの連帯を。UNLは占領者の獄中者にあいさつと、彼らがわれらが人民のバイオニアとしてあることを明確にする。

⑤四月二五日、獄中者と連帯のゼネスト。

⑥四月一一、一八、二四の各日は、商店の全日開店を。

民族統一指導部

一九九三年四月一日

## 一〇組織による、土地の日声明（抄）

〈被占領下パレスチナならびに離散のキャン

普の大衆へ〉

〈輝かしきインティファーダの英雄たちへ〉

〈四八年被占領下のわれらが人民、大衆へ〉

毎年、この三月三〇日に、われらがパレスチナ大衆は土地の日を祝す。パレスチナ人民がいかにその土地に近いか、それを防衛するのに十分力を確認する。

ダの深化、拡大を呼びかけ、大衆的な結束を確認する。民族的團結を深化させ、あらゆる地域で、入植者ども、ファシストどもへの痛烈な打撃を与えることを呼びかける。占領がいかなる側面においてもまったく成果のないプロジェクトであり、われらが権利の獲得のための闘いが占領をあきらめさせるように強制する現実的な方途を確認する。

UNLは諸君らにあいさつを送るとともに、以下を呼びかける。

①インティファーダを拡大し、大衆的デモの組織化をもつて、それを強化せん。

②四月九日、インティファーダ六五ヵ月目に突入、ゼネスト。

③四月一六日、アラブ・ジハード殉教の日。大衆デモを組織し、占領軍との対決を。

④四月一七日、獄中者の日。多様な活動をもつて獄中の自由の戦士たちとの連帯を。UNLは占領者の獄中者にあいさつと、彼らがわれらが人民のバイオニアとしてあることを明確にする。

⑤四月二五日、獄中者と連帯のゼネスト。

⑥四月一一、一八、二四の各日は、商店の全日開店を。

その最初から、シオニストの企ては、英統治信託下でパレスチナ人民を離散させ、追放し、武装入植地の設置を通して、力によってパレスチナの土地を略取する目的を持つていた。この企ては、シオニスト擬制国家をパレスチナの土地に建設後も、継続され、いつそう加速された。六七年に西岸、ガザを占領した後、奴らは、數十の入植地をパレスチナ全土にわたって建設した。パレスチナへの新たな移民の波が作られ、米国の財政的軍事的な支援がシオニスト擬制國家へと注ぎ込まれた。その最新のものは一〇〇億ドルの信用保証で、それは六七年被占領地にさらに入植地建設をとくに奉仕するものである。

〈われらがすべての人民へ〉

その最初から、シオニストの企ては、英統治信託下でパレスチナ人民を離散させ、追放し、武装入植地の設置を通して、力によってパレスチナの土地を略取する目的を持つていた。この企ては、シオニスト擬制国家をパレスチナの土地に建設後も、継続され、いつそう加速された。六七年に西岸、ガザを占領した後、奴らは、數十の入植地をパレスチナ全土にわたって建設した。パレスチナへの新たな移民の波が作られ、米国の財政的軍事的な支援がシオニスト擬制国家へと注ぎ込まれた。その最新のものは一〇〇億ドルの信用保証で、それは六七年被占領地にさらに入植地建設をとくに奉仕するものである。

スチナをユダヤ化しようという企みと展開の失敗に新たな事実を附加した。

〈われらがすべての人民へ〉

称える！

—土地の日、すべてのパレスチナ人民のものとして称えよ！  
—殉教者たちよ、榮光と不滅だれ！  
—われらが人民に勝利を！ 占領者には屈辱を！

### パレスチナ一〇組織

九三年三月三〇日

### アラブ外相会議最終声明（抄）

九三年四月二一日

1993年6月30日 第90号

月刊 中東レポート

月刊 中東レポート

第一、和平に関わっているアラブ諸国外相会議は、共通の姿勢とアラブの統一した立場が、地域の栄誉ある、正当で、包括的な和平の貢献にとって重要なことを確認する。

第二、アラブ諸国は、エルサレムを含む六七年以來のすべての被占領下のアラブ領土からイスラエルが撤退することを明記した決議四二、三三八、ならびに、レバノン領からの即時無条件の撤退を明記した決議四五五を基礎とした、包括的で正当な和平の目的に沿っていくことを繰り返す。包括的解決とは、すべての戦線、すべての諸国を包むものとしてある。

第三、アラブ諸国は、レバノン領への侵略の継続、他の地域での入植活動、追放、家屋の爆破、パレスチナ市民の殺害、エルサレム、西岸、ガザの封鎖と孤立化といった非人道的行為の継続を非難し、イスラエルは即刻こうした措置を停止するよう呼びかける。アラブ諸国は、イス

ダの戦略の一つであり、新しい投資の機会を与えてはいる。が、ガザでは、かなりの遅れをとっている。

ここでは、西岸、ガザの輸出力について見てみよう。

#### （衣類）

輸出部門では、約一〇の産業ユニットが多く生産物を生産している。が、多くは零細企業に依存している。産品としては、ジーンズなどの綿製品、コート、スポーツシャツ、その他の衣類がある。

が、紡績生産がなく（一五〇〇万ドルをかけた紡績工場が計画されてしまい）、紡績糸はイスラエルを経由した輸入に依存している。

三つの主な織維工場が稼働しているが、その一つは最終工程をイスラエル内に建設された工場で行っている。

西岸、ガザでは幅広織りがない。そのため、輸入かイスラエル産品かを使うことになる。そ

の結果、EC市場で税金特權を得れず、一四%の税金を余儀なくされている。一部の企業は英國やEC向けの衣類を生産し、税金問題を解決しようとしている。しかしながら、限定された輸入業者のみが、パレスチナの生産者とのこうした取引を希望しているだけである。

衣類製造にたずさわる労働者は一〇〇〇人である。そして、輸出の大部分はイスラエルの企業が行っている。

#### （靴製造）

この部門では七つの主要な生産ユニットが広範囲な生産に関わっている。中心的には、スポーツ用、通常の靴、その他である。この部門の総労働者数は六〇〇人以下で、どの工場もその能力以下の生産しかしていない。

三つのユニットは近代的な設備と能力を有し、製品をイスラエル内や西岸で販売している。その一つは製品の一部をポーランドへ輸出し、また、ライセンス生産している工場は、製品をキプロスへ輸出している。他にも、イスラエルを経由した間接的な輸出がなされている。大手企業の一つは、三〇〇人の労働者が働き、英國への輸出も行っている。

西岸に皮革加工を行う工場が一つあるが、原材料のほとんどは輸入に依存し、靴用の箱はイスラエルから輸入せざるを得ない。運動靴の製造では良好な品質の製品が生産されている。

#### （食品）

食品製造では、スープ用粉末、ソフトドリンクや中東特産の食品の製造、販売がほとんどである。唯一の例外はチョコレートで、高品質で知られ、なかには輸出も行われ、英國では注目を集めている物もある。

いくつかの機械製品が西岸やガザで生産されている。溶接製品、釘、のこぎり、コーヒーヒー引き、ひげそりといった物である。が、品質基準は一部でしか達成されてはいない。

特定の製品は良い設備や機械を備えており、専門的な管理を行っている。電気製品生産者は製品がEC内でも競争力を有し、輸出能力があると自信を持っている。

#### （機械製品）

EC諸国は、現在、技術援助や市場面での支援を申し出ている。品質管理や品種改良、包装などの支援と欧州市場の拡大が計画されている。

また、欧州での秋や冬の食品見本市に施設団を送ることが計画されている。

#### （他の工業製品）

ヨシ製の家具、プラスチック製品、ガラス、タバコ、医薬品、石鹼、飲料などが挙げられる。ヨシ製の家具製造業者は極東での竹製品との競争を余儀なくされている。ランプはデザイン、品質ともにすぐれ、英國市場に進出している。化粧品や石鹼は宣伝上の問題を抱えている。プラスチック製品の輸出能力はヘブロン地区で増加した。タバコは英國市場に販売代理店を見つけ、特定の商標を用いる交渉がなされている。プラスチック・パイプや同製品は潜在的な輸出能力を有し

ラエルの占領に対する抵抗は国連憲章や国際法に照らして自衛のための正当な権利であることを確認する。また、安保理や共催者が占領下にあるパレスチナ人民を保護し、イスラエルがこうした措置を停止するような必要な措置を採用するよう勧告する。それらは、和平過程の将来と、国際社会に対してもイスラエルが全的に責任を負うものとしてある。

第四、アラブ諸国は、和平過程がイスラエルが路にさしかかっていることに、深い遺憾の意を表明する。イスラエルがアラブ諸国の利益やその和平への関わりになんらの配慮もせず、障害設置政策を拡大し、国際的な正当性や国際法の原則を無視する対応を拡大していることに警告を発する。

第五、アラブ諸国は、和平過程の共催者にイスラエルに対して国際的に正当な決議への違背を終わらせるための必要な措置の採用を勧告する。和平過程が出発点とした基礎、決議、原則の適用、とりわけ決議四二、三三八とランド・フォー・ピースの原則とパレスチナ人民の民族的権利の保証を呼びかける。また、決議四五の全面的適用をもってレバノン領土の占領に終止符を打つよう呼びかける。米国が追放を非難し、イスラエルが決議七九九を遵守するように将来追放を繰り返すことのないよう勧告する。

第六、正当で包括的な和平を創出する目的のため新たな機会を作ることへのアラブ諸国の中東では二二〇〇ドル、ガザは七〇〇ドル（イスラエルは西岸の約五倍）だった。これは八七年の平均に比べて三〇%減。パレスチナ財界人は、経済状況に一定の改善があると言う。が、一部のセクターではインティファード開始以前の水準にも達していない。また、多くの産業部門における生産は、その能力よりもかなり低い。

イスラエル産品のボイコットは、インティファード開催することに合意した。

#### アル・ハダフ誌、第一一四〇号

第七、参加者は、次回の外相会議をアンマンで開催することに合意した。

#### 被占領下のパレスチナ経済——西岸、ガザの輸出力（抄）

第九次交渉を開始するよう提案する。この会議は、米国によって提出されたすべての約束や保証が、この声明の後、実行に移されることの必定期間に内に中心問題での進展を達成することを目標した最近のコンタクトの結果に鑑みて、アラブ外相会議は共催者に、九三年四月二七日に定められた。

ているものの、市場開拓はこれからである。医薬用の製品は、イタリアなどで激しい競争に直面している。が、一部のアフリカ市場では主要な供給者となっている。

手製のタイル、ガラス製品、オリーブの木製品や装飾品といった伝統的な手工業製品はソーリストに売られたり、一部は英國へ輸出されたりしている。が、これらの中心的な市場は北アフリカで、ここでも新しいデザインや品質向上などが要求されている。

伝統的なパレスチナの製品として、刺繡がある。技術は高度の専門的なものと見なされている。が、価格が高いことが難点。商業ベースに乗せるような開発が試みられているが、立ち遅れている。婦人同盟では、ベツレヘムやガザを中心に、刺繡の活性化を模索しているが、商業ベースには至っていない。エルサレムの一企業は刺繡製品の発展を専門的に行って、製品をロンドンの博物館に陳列したりして、販売の促進を策している。

#### （付記）

西岸、ガザの経済は、大きくはイスラエルの需要と政治に依存しており、政治状況は、言うまでもなく、産業開発を支えることにはなってない。パレスチナの産業は、銀行、貿易、投資その他全般に渡って、障害、困難に直面している。貿易や投資の促進のための基金設置におけるE.C.援助の後、発展が観測されるようになってきている。

今、必要なのは、結束を固め、民族的統一を達成するという責任である。

#### ラビンは自らが点火した火災と闘つている（抄）

A.H.S.・デルハリ（元サウジ企画庁次官）、アラブ・ニュース紙、四月一四日

イスラエルに占領された地域のパレスチナ人一かつて難民とされた人々の子孫とその後に占領下に置かれた人々によるインティファーダに対応している責任者が四五年前に難民の創出に個人的にも関わった同じ人物、現首相のラビンであるという事実は決して皮肉ではない。四八年に、パレスチナ全域で戦争が燃え上がった時、ラビンは旅団長だった。彼の部隊が四八年の七月一、一二両日に二つの町で五万のアラブ市民に対して行ったことは何だったか。

ラビンは、軍事領域において、「住民の追放は基本のこと」と決定したと、後に語っている。ヨルダンのアラブ軍は彼ら（難民）の面倒を見ることを強いられ、「それゆえに兵站上の困難がその戦闘力に影響し、われわれにとって容易になつた」とも。

「リッダ地区の住民はすんで離れようとはしなかった。軍事力を行使することを避け得なかつた。住民を「五ないし三〇マイル行進させた。ヨルダンのアラブ軍團と会合させるために警告の射撃が行われた」とラビンは続けている。そのアラブ軍團の指揮官G・パシャは、こうした難民の哀れな姿を記録していた。まず、イ

一方の側は、それがどんな方法であれ、イスラエルが撤退することを支持する。最も重要なことは、イスラエルの撤退であり、パレスチナ人は自らの問題をコントロールする責任を果たすことができる、と。他方は、一方的撤退を大きな問題と見なす。もし、イスラエルの撤退が、パレスチナ人との協調なしに行われるなら、内部で対立が発生し、混乱に陥る、治安や安定はなくなる、と言う。パレスチナの指導者の中には、イスラエルに対して、彼らとの協調を抜きにした撤退をしないよう、ガザを取り残さないように、と呼びかける者も出た。

一方的撤退——それが可能として——は、誰もが軽くは扱えない、否定し難い問題を作るであろう。だが、仮に、PLOや国連との協調の上でなされたとしても、問題が発生するのは、まったく自然なことである。イスラエルの占領下にあろうと、一方的な撤退がなされようと、いろいろな問題が存在する。

#### ガザからイスラエルは撤退するか？（抄）

アル・コッズ紙、三月二二日

イスラエル内では、ガザ回廊からの一方的撤退の声が、日増しに強くなっている。イスラエ

ル政府内でも、意見が闘わされている。イスラエルが撤退することを支持する。最も重要なことは、イスラエルの撤退であり、パレスチナ人は自らの問題をコントロールする責任を果たすことができる、と。

一方的撤退を大きな問題と見なす。

もし、イスラエルの撤退が、パレスチナ人との協調なしに行われるなら、内部で対立が発生し、混乱に陥る、治安や安定はなくなる、と言う。

パレスチナの指導者の中には、イスラエルに対して、彼らとの協調を抜きにした撤退をしないよう、ガザを取り残さないように、と呼びかける者も出た。

一方的撤退——それが可能として——は、誰もが軽くは扱えない、否定し難い問題を作るであろう。だが、仮に、PLOや国連との協調の上でなされたとしても、問題が発生するのは、まったく自然なことである。

イスラエルの占領下にあろうと、一方的な撤退がなされようと、いろいろな問題が存在する。

唯一、パレスチナ人、イスラエル人を含めた中東のすべての人民にとって正当な和平が達成されたときにのみ、こうした問題は消滅し、治安や安定が達成される。恒久的な和平合意は、パレスチナ人民に、自決の権利を与え、「ランド・フォード・ピース」の基本を適用することになる。

ところで、イスラエルは、一方的撤退を本当に考えているであろうか？ ガザから撤退したとして、イスラエルは治安や安定を達成できるであろうか？

もし一方的撤退がイスラエルの安全保障を達成するとしたら、報道上での論争なしにガザから撤退していったであろう。イスラエルは、パレスチナ人と恒久的な和平以外に、撤退が安全保障や安定をもたらしはしないことを、よ

く理解している。

イスラエルは、心理戦争や時間稼ぎを通して、最も高い利益を伴う合意を作ろうとしている。

それゆえ、われわれの側はあれこれ論議し、イスラエル内でこの問題への支持の声が大きくなることをそぐようことをすべきではない、それがわれわれの義務である。イスラエルが撤

退するときが来たら、われわれは、最初はどんなに否定的であろうと、それを歓迎すべきである。そうすれば、われわれは占領の終結といふ明確な目的を達成することになるし、どんなにその代価がかからうと、問題に真剣に直面し、われわれが組織していく以外にはないことを理

解するようになろう。

ラビンは、強制的な撤収が軍の規律に問題を生じさせたことを認めていた。ちょうど今日のパレスチナ人弾圧が四年前と同様、規律上の問題を起こしているように。

ラビンは、強制的な撤収が軍の規律に問題を生じさせたことを認めている。ちょうど今日のパレスチナ人弾圧が四年前と同様、規律上の問題を起こしているように。

皮肉の一つとして、ラムレからの難民の一人に、後のアブ・ジハードがいた。当時子供だった彼は、アラブ・ジハードというコードネームを用いて、イスラエルに対する軍事作戦の責任者となつた。そして、インティファーダへのPLOの支援を担っていたアブ・ジハードは、八八年四月十六日、チュニスで暗殺された。当時ラビンは、

その暗殺作戦を承認したイスラエル内閣の戦争は、インティファーダ鎮圧、つまり最初の難民と相違なかった。

イスラエル軍が攻め込んだ他の市、町、村で難民流出が起り、四七年から四九年の間に、多くは西岸とガザへと逃げた。六七年に、イスラエルはこれらの地域を占領し、さらに三〇万の新たな難民を創出した。この六七年の占領を指揮したのは、再び、ラビンで、この時彼は参謀総長だった。

ラビンは、七八年に過去の経験を本にした。しかししながら、イスラエルはリッダの追放過程などを検閲で削除した。ラムレやリッダの市民を難民としたその部分は、N.Y.タイムズに別個に掲載された。ラビンは、「後知恵と言わざれども、私はその行為は基本的なことだと考える。五万のアラブ、モスlems、キリスト教徒の移送はイスラエルの安全保障に重要な貢献をした」と書いている。

「イスラエルの多くのがそれを支持している。強制移送は、兵站上の視点から実践的である。二〇〇〇万のアラブを国境を越えて撤収させることが可能な環境が大きくなっている。それは多分、人口地勢学上の悪夢への回答だろうが、しかし、われわれは永きに渡って耐えてきたイスラエル＝アラブ対決から抜け出すことにならう」とも。移送という国際的に非難されたナチの犯罪を、パレスチナ人民すべてに對して実行せんとする意図が示されている。

さらに十数年、首相かつ戦争相としてラビン

後は、アラファトとともにファタハを創設した彼は、アラブ・ジハードというコードネームを用いて、イスラエルに対する軍事作戦の責任者となつた。そして、インティファーダへのPLOの支援を担っていたアブ・ジハードは、八八年四月

十六日、チュニスで暗殺された。当時ラビンは、

- ・ヨルダン、U N R W A 職員がスト、賃上げ要求、同機関の活動縮小と料金徴収策に反対。
- ・南部、レジスタンスの攻撃、イスラエル兵一人負傷。ヘリ空爆と軍の増強。
- ・イスラエル、ハーレツ紙、ディモナ核施設から廃棄物問題を暴露。環境省はこれを否定、ラビンは地域を軍事地域にして封鎖。
- ・反名譽棄損同盟への集団訴訟（本文参照）。

四月一五日

・人民の鬪い、一人死二三人負傷。家屋放棄、

・南部、レジスタンスの攻撃、イスラエル兵三人死亡、一人負傷。他方、ヘリ空爆と砲撃で、市民八人国連軍一人負傷。

卷之三

応の目的を果たした、交渉の行き詰まりは彼らの主張の正しさを証明しており、今後もさまざまな方法を用いて闘いを展開する、それが人民の闘いに応え、呼応する義務である、としている。

1993年6月30日 第90号

## 被追放者たちの現状——殉教の行進を中心

宣の検問、スムーズに向かって行進を行なふ。イスラエル軍は彼らの宣言に恐怖し、戦車や兵員輸送車などで固め、新たに地雷を敷設した。そして、南下してくる彼らに向かって（その行進のすぐ近くに）、銃や砲による射撃を繰り返し、リモコンで地雷を爆破したりした。被追放者たちは、ときにはしゃがみ込んで被弾を避けつつ、着実に敵のラインへと迫った。敵の着弾はさらに近くへ迫った。彼らの全員が「神のために死ぬことはわれわれの純然たる希望である」と書いたはちまきをしめている。敵の検問まで約五〇〇メートル、近いところに布陣している部隊からは一五〇メートルとなつたところで、一人が負傷した。西岸のトルカラム市のF・カラウイ氏（三四歳）が、三〇メートルのところに着弾した戦車砲弾が吹き飛ばされた岩の破片を胸に受けた。砲弾の破片そのものだつたら、致命傷になつただろう。だが、怪我はそれほどではなかつた。

迫るよう呼びかけた。これに応えて、家族を中心、シャフィ氏や他の代表団の家の前での座告を発した「ファタハ声明」に対して、「イスラエルの諜報機関の仕業であり、パレスチナ人民の分裂と内戦を発生させようという狙いの陰謀だ」と、挑発に乗せられないようについてニアシアティブをとったのは、彼らであった。交渉反対の意志を表現するため、彼ら、ワシントンでの交渉再開の前日の二六日、再び「殉教の行進」を開催した。

ズムラヤ検問から約三五〇メートル、もっとも近い部隊からは二〇〇メートルとないところで、行進は停止を余儀なくされた。戦車からの砲弾が二発、彼らの行く手で爆発、砲弾と岩の破片が彼らの周囲に降り注いだ。誰も怪我はしなかつたが、そこを坐りこみの場と決めた。

敵は、強力なサーチライトを設置し、彼らとの周辺を照らし出した。夜の闇の中を彼らが文字通り死の行進を展開するのではないかと恐れているのだ。その証拠に、焚火をしたり、寒さで身を寄せあつたりしているだけの彼らの頭上を、曳光弾が繰り返し飛び交っていく。

二七日、一〇組織呼びかけのゼネストが完璧な形で展開されたことを知った彼らは、交渉は時間の浪費、交渉団はわれらが人民を代表してはいない、帰還云々の取引を拒否するし、指名された者も拒否せよ、真に人民を代表する指導部を選出する選挙を、などと呼びかけた。

彼らの言動は、「四〇〇万の離散のパレスチナ人の帰還こそ問題の解決だ」というのをはじめ、雨と悪天候で座り込みを中断せざるをえなくなつた五月二日まで連日、交渉の日々の進展と同等の重みで報道された。交渉によつて忘れ去られることを許さないという彼らの鬪いの一

の孫たちへの弾圧の指揮を取っている。再びラ  
ビンは、自らの本で自画自賛したしたようなこ  
とを展開するのであろうか？ だがそれは、ラ  
ビンの思惑とは逆に、イスラエルの荒廃をもた  
らすことになるだろう。

彼らはそこに留まり、パレスチナ、アラブ、世界の人民に向けた呼びかけを繰り返した。彼らの呼びかけに応え、翌一七日、女性七五人と子供たち三〇人が、シャフィイ氏の家の前に座り込み、「被追放者の決議七九九に沿った帰還まで、和平の再開などない！」と交渉からの撤収を呼びかけた。

「アラファト決断」に対して、〈われらが大

彼らが礼拝をしているときに、一五五ミリ砲弾が近くで轟音をたてた。彼らが何をしているかを知ったうえでの、明らかな嫌がらせである。轟音が静まると同時に、アル・アクサ・モスクの僧侶シエーケ・アブ・ザイードが、「堅忍なれ。アラーはわれわれを守る。われらが心を平靜にし、団結を」と語りかけた。

ンプは「火薬樽」の状況（本文参照）。

・南部、ガリリーにロケット攻撃。

四月二六日

・人民の鬭い、二人死亡、一七人負傷。UNRW

A事務所への座り込みなど。

・被放者、再度の「死の行進」（資料参照）。

四月二七日

・被占領地、再びの攻撃。

・第九次交渉の開始（本文参照）。

・被占領地、ゼネストと人民の鬭い、少なくとも五七人負傷。ラファハでは、軍に手斧で攻撃（射たれて負傷）。離散のキャンプでもゼネスト。

・一〇組織、交渉団とPLO「指導部」はパレスチナ人民のほんの少数派にすぎないことは

・スチナでも証明された、ワシントンでのいかなる合意も、われらが人民を拘束はしない。

・追放者、交渉は時間の浪費、帰還云々の取引は犯罪、われわれは拒否するし、指名された者も拒否せよ、眞に人民を代表する指導部の選挙を。

・ジュネーブ、多国間交渉、水資源部会。

四月二八日

・被占領地、人民の鬭い、四人死亡、五〇人負傷。

・イスラエル側、三〇名の帰還を認めると発表。

四月二九日

・軍のガサ入れ、逮捕と人民の鬭い。

・交渉、自治、土地・水、人権の三部会設置で合意。他方、イスラエル側は、パ交渉団への支持が拡大するよう支援すると発表。

・南部、レジスタンスの攻撃。

四月三〇日

・古い追放者一五人が帰還（五月三日に第二陣、六七年以來追放総数は約二〇〇〇人）。

・アイヌヘルワ、GCの建物への空爆。

五月一日

・シャフィ、今回進展なれば、和平そのものが展望なくなる。

・南部、レジスタンスの作戦、イスラエル兵一人死亡。

五月二日

・アラファト、ヨルダンの同士会を非難。

五月三日

・ガザ、四人射殺された。

・カドウミ、イスラエル提案にはなんら新しいものはない。

・イスラエル閣議、イスラエル、ヨルダン、パレスチナ連邦、PLOとの交渉、討議。パラ

・イスラエル閣議、イスラエル、ヨルダン、パレスチナ警察の創設など続出。

五月四日

・人民の鬭い、一〇人死亡、四五人負傷。他方、イスラエル商人への攻撃、負傷させた。

・南部、レジスタンスの攻撃二つ。

・ローマ、多国間交渉、経済発展部会。

五月五日

・ガザ、人民の鬭い、一〇人負傷。

・アシュラウイ、討議は中心的ここまで扱っている。が、封鎖と弾圧の継続に抗議し、人権問題部会を停止する。

・アラブ、中心はアラブ領土からの撤退である

が、イスラエルは古い考え方を繰り返している。

・ンヤラ、占領は安全を保障しない。アラブ領土からの撤退がすべてに安全を提供する。

・セントの占領でも、全面的な和平はない。

・南部、レジスタンスの攻撃。

五月六日

・人民の鬭い、一人死亡、六人負傷。入植地に二つの火炎ビン。イスラエル内で、警官が射たれ負傷。

五月七日

・ラボ、自治とは名ばかりで、占領を正当化する企画を全面的に拒否する。

五月八日

・西岸、人民の鬭い、一人死亡、九人負傷。ガザでは、軍の発砲で運転していた男と同乗の子供（三歳と七ヶ月の女の子）負傷。

・ハマス、交渉は自殺行為、停止を。他方、ヨルダンの同士会は、アラファト非難のビラ。

・国連人権委、パレスチナ人民の人権状況の改善勧告レポート。

五月九日

・人民の鬭い、一人負傷。

・アサド、全面的な撤退と引換で全面的な和平について討議する。包括的な和平は和平過程のスタート時からの基本原則。

五月一〇日

・イスラエル＝エジプト国境、前日と二回に渡り、越境したパレスチナ人六人が殺された。

・交渉、パ側は、約束違反に反発し、交渉人員を三人に縮小、三部会を停止。